

流山市のごみ問題の現状と循環型社会への取組
—小型家電リサイクル法を中心に—

社会学部ライフデザイン学科

品田 実（指導：吉永明弘講師）

1. 卒業論文の動機と構成

以前からゴミ問題に関心があり、流山市のクリーンボランティア「まちをきれいに志隊」に参加したり、ペットボトルのリサイクルに協力したりしてきた。卒業論文でもゴミ問題を追究したいと考えた。

卒業論文の目次は以下の通りである。

- 第1章 廃棄物とごみの定義と種類
- 第2章 循環型社会3Rとその他のRについて
- 第3章 身近な環境のごみ問題
- 第4章 流山市のごみ問題への取組
- 第5章 流山市の小型家電リサイクル法の取組

ここでは、第5章「流山市の小型家電リサイクル法の取り組みについて」の内容を詳しく紹介する。

2. 流山市の小型家電リサイクル法の取り組みについて

2-1 法律の紹介

小型家電リサイクル法とは、正式名称を「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」といい、2013年4月1日から施行された新しい法律である。使用済み小型家電は、都市にある鉱山という意味で、「都市鉱山」といわれている。都市で捨てられる小型家電は、約半分がリサイクルされずに廃棄物として埋め立て処分され、また約2割が違法な回収業者によって集められ、その中には国内外で不適正処理されているものもある。

小型家電リサイクル法で、リサイクルの対象となっているものは28種類に分類されている。パソコン、携帯電話、電子レンジ、デジタルカメラ、ゲーム機等の日常で使われる品目である。ただし市町村によって実際にどの品目がリサイクルされるのかは異なっている。

小型家電の回収方法としては、①ボックス回収、②ステーション回収、③ピックアップ回収、④集団回収・市民参加型回収、⑤イベント回収、⑥清掃工場への持込み、⑦戸別訪問回収がある。市町村によって回収方法の種類は違う。

2-2 流山市の小型家電リサイクル法の取組

流山市は、小型家電リサイクル法に指定されている品目をできる限りリサイクルしようとしている。ただしパソコンは資源有効利用促進法に基づいて処理することになっており、携帯電話は販売店で回収をお願いしている。

流山市の回収方法はピックアップ回収である。市民が出した燃やさないごみや粗大ごみの中から出た小型家電を流山市クリーンセンターで選別し、流山市が委託している事業者でリサイクルをしているという。ただし、燃やさないごみの中からピックアップをするので時間がかかり、市の職員によって小型家電リサイクル法の対象となっている品目が選別できずに、結局リサイクルされずに処分される場合が問題である。

2-3 他の市町村の小型家電リサイクルとの比較

ここでは、流山市と他の市町村との小型家電リサイクルを比較し、流山市が今後どのように小型家電リサイクルを取組んでいくかを考える。その際に、小型家電リサイクルだけではなく、一般ごみの分別、面積・人口も比較した。また、ホームページ等の情報だけでは、実態がよくわからないので、各自治体の担当職員に直接インタビューし、リサイクルの実態を探ってみた。

(1) まず、北九州市、横浜市、名古屋市、千葉市と言った主要都市と比較してみた。その結果、次のことが分かった。

流山市では回収ボックスは設置しておらず、他の主要都市では回収ボックスを設置している。人口が多い主要都市では、不燃ごみや粗大ごみが多く排出されるため、ピックアップ回収方式にすると、その中から小型家電を選別するのに、とても手間がかかるからだろうと考えられる。

主要都市でボックス回収方式にする際に、小型家電を回収する側では手間はかからないが、消

費者側の小型家電リサイクルに対する意識が低ければ、不燃ごみや粗大ごみと一緒に排出してしまい、結局小型家電はリサイクルされず処分されることが問題になる。

したがって、ボックス回収を実施する場合には、消費者のリサイクルに対する意識づけが必要である。

(2) 次に、流山市と近隣の東葛地区を比較してみた。

流山市と松戸市ではピックアップ回収、柏市と我孫子市ではボックス回収、野田市のみ清掃工場への持ち込みであり、これら3つのグループに分かれることがわかった。

各市のごみの分別とリサイクルの充実度は以下のとおりである。

- 松戸市：流山市とほとんど同じである。
- 柏市：対象としている品目は少ないが、ごみの分別ができており、リサイクル活動がとて充実していると考えられる。
- 野田市：法律で指定されている品目はほとんどが対象となっていないが、ごみの分別の種類が少ないことから、リサイクル活動が充実しているとはいえない。
- 我孫子市：対象としている品目もごみの分別が少ないことからして、我孫子市のリサイクル活動は全く充実していないと言える。

以上から、流山市の近隣でリサイクル活動が一番充実しているのは柏市で、充実していないのが我孫子市であるといえる。

さらに、柏市へのインタビューの結果、次のことが分かった。

柏市では、ボックスの設置と管理は柏市が行い、柏市が委託している事業者が回収に来ているという。対象としている品目は、柏市が指定している小型家電である。パソコンは対象とはなっていないが、携帯電話はサイズが小さく回収率が高まることから小型家電のリサイクルの対象にしている。また鎌ヶ谷市と白井市とも連帯し全く同じ方法で小型家電リサイクルを行っているという。

また、携帯電話の回収率は高く、小型家電リサイクルに対する意識の高い市民が多いという。問題点として、柏市が指定していない品目がボックスに入れられる場合がある。しかし他のごみが入れられていることはほとんどなく、問題はほとんどない。

また我孫子市へのインタビューでは以下のことが分かった。

我孫子市ではボックスを設置し、回収をするのは市が行い、我孫子市が委託している事業者が集まった小型家電を渡しリサイクルをしている。対象としている品目は東葛地区の中でも最も少なく人口も東葛地区の中でも少ない。したがって回収率はとても低く、イベントでの回収も実施をしたことがあるが、それも回収率はとても低かったという。ボックス回収の問題点として、他のごみをボックスに入れられることも多くあるという。

さらに野田市でのインタビューでは、毎月第4日曜日に持ち込みの回収をし、市民が持ち込みリサイクルをしていること、回収率は高く、市民の小型家電リサイクルに対する意識は高いことが分かった。

以上から、東葛地域でリサイクル活動が一番充実しているのは柏市で、充実していないのが我孫子市だと、先の推測がいっそう確かなものとなった。そして、リサイクルがうまくいくかどうかは、市民がリサイクルに対する高い意識をもち、実際に分別をきちんとするかどうかにかかっていることがあらためて分かった。

2-4 流山市の今後の小型家電リサイクルについて

流山市のピックアップ回収の問題として、市の職員が小型家電リサイクル法の対象となっている品目を見分けられず、結局処分になってしまうことがあげられる。流山市は今後人口が増えていくので、ピックアップ回収方式のままだと市の職員が選別をするのはますます難しくなると考えられる。したがって、人口が多い主要都市や柏市同様ボックス回収方式にしてもいいと考えられるが、その際には、市民にリサイクルに対する高い意識をもってもらい、分別を徹底してもらう必要があるだろう。